

『財政赤字の神話』 — MMTと国民のための経済の誕生

The Deficit Myth

Modern Monetary Theory and the Birth of the People's Economy

by Stephanie Kelton

日本語訳 土方奈美

序章 バンパーステッカーの衝撃

厄介なのは知らないことじゃない。知らないのに知っていると思ひ込むことだ。マーク・トウェインの言葉が、序章のタイトル横に引用されている。

2008年のオイルショック。大多数のアメリカ人は、この国は財政的にも破綻すると悲観的になり、車のバンパーに「アンクル・サム」のステッカーを貼っていた。経済を正しく見る目を持っていなかったからだ。

(マーク・トウェインの言葉、ソクラテスの「不知の自覚」自分が無知であることを知っている人が賢い、と同じだ。)

What gets us into trouble is not what we don't know.

It's what we know for sure that just ain't so.

(マーク・トウェインの言葉には、こんなものもある。

「自分が多数派の側にいると気がついたら、もう意見を変えてもいいころだ。」MMTを論ずる時に思い浮かべる言葉だ。)

第一章 家計と比べない

アメリカ中の家族が支出を抑え、困難な決断をしている。政府もそうしなければならぬ。 — オバマ大統領 (2010年の一般教書演説)

神話1 政府は家計と同じように収支を管理しなければならない。

現実 家計と異なり、政府は自らが使う通貨の発行体である。

通貨の発行者と利用者の違い。通貨主権国。金との兌換は無い。(管理通貨)

サッチャー首相の勘違い。「国家には国民が自から稼ぐ以外に収入源はない。国家が支出を増やそうと思えば、国民の貯蓄から借りるか課税を増やすしかない」

「政府のお金などというものが存在しないことは、わかりきっている。存在するのは納税者のお金だけだ」

MMTの父とされているウォーレン・モズラー「政府が欲しがっているのはドルではない。国民を働かせ、必要とするものを生産させることだ」

自宅で子供たちに仕事をさせるために名刺を配る逸話。名刺でしか払えない税金を課した。

他の本での記述によると、モズラーは「納税者が税務署に紙幣で支払うと、ス

タッフはデータを入力した後に紙幣をシュレッダーにかける」と言っている。それ以外の税の役割。インフレの制御。所得の配分。特定の行動の抑制・促進
「緑のドル」と「黄色いドル」＝紙幣と国債
他の本の記述による。自国の通貨を持たないイタリアで2019年に「ミニBOT」という国債（短期財務証券）を発行する計画あり。無利子永久債で、買い物や納税にも使えるのも。ユーロとは別のイタリアでのみ流通する貨幣である。EU本部からの反対で実現せず。

第二章 インフレに注目せよ

神話2 財政赤字は過剰な支出の証拠である。

現実 過剰な支出の証拠はインフレである。

失業率とインフレ率の両者をコントロールすること。

ラーナーの主張。財政政策によって、雇用が充分ありインフレ率も適度である状況を作り出すのが肝要。その結果、財政が黒字、赤字になる、あるいは均衡するかなどを気にする必要はない。**機能的財政論**。

政策提言＝**就業保障プログラム（JGP）**政府の資金が尽きることはない。

支出したあとに税金として通貨を回収すればよいのだ。

第三章 国家の債務（という虚像）

神話3 国民はみな何らかのかたちで、国家の債務を負担しなければならない。

現実 国家の債務は国民に負担を課すものではない。

政府の債務を0にしたいか＝**YES**、世界中の米国債を無くしたいか＝**NO**。同じ問いであるのに、審議員ですら**国家の債務**に混じった感情を抱いている。個人の借金と国家の債務を同一視することが、理解を誤らせる。

貿易黒字の本当の姿は、財やサービスと云う実物を得ながら、その対価として会計記録しか渡していない。（中国が保有する米国債について）

エリック・ロナガンの思考実験（2012年）

日銀が国債の残高をすべて買い入れて貨幣化しても、市中銀行の準備預金残高がふえるだけで、インフレはおこらないし、経済成長するわけでもない。

アメリカはこれまで6度も深刻な不況を経験しているが、いずれも長期にわたって財政均衡が続いた後に起きている。

他の本の記述では、**スペンディング・ファースト**と称して、政府の支出が最初にあつて、国民はそれで得たお金で納税する、と説明している。国王や領主がまず金貨を発行しなければ、国民は金貨を持ちようがないことから明らか。

第四章 あちらの赤字はこちらの黒字

神話4 政府の赤字は民間のクラウドディングアウトにつながり、国民を貧しくする。

現実 財政赤字は国民の富と貯蔵を増やす。

クラウドディングアウト。 政府の借金→民間の借り手と競走→金利の上昇→民間投資の減少→経済成長の鈍化。 勿論、これも神話だ。

二つのバケツの話。政府部門の赤字＝非政府部門の黒字。

全体像を見る「フクロウの視点」が必要だ。ただし、政府の赤字の結果の黒字ががまんべんなくあらゆる層に行き渡らない。公平に分配される赤字が必要だ。

第五章 貿易の「勝者」

神話5 貿易赤字は国家の敗北を意味する。

現実 貿易赤字は「モノ」の黒字を意味する。

三つのバケツ。政府部門・民間部門・海外部門

世界の各国がドルを貯めたいというニーズにより、米国の貿易赤字が出る。

完全雇用こそが本当の目標。

第六章 公的給付を受ける権利

神話6 社会保障や医療保険のような「給付制度」は財政的に持続不可能だ。もはや国にそんな余裕はない。

現実 政府に給付を続ける意志さえあれば、給付制度を支える余裕は常にある。重要なのは、国民が必要とする実物的な財やサービスを生み出す、経済の長期的な能力だ。

社会保障も医療保険も資金を出しているのは政府だ。資金不足は起こらない。

2005年グリーンズパンFRB議長が議会で述べた事。

「政府が必要なだけ貨幣を発行し、給付を実施することを阻む要因は何もないので、現行の賦課方式の年金が安全ではないとは思いません」

第七章 本当に解決すべき「赤字」

豊かな時代の貧困は悪だ。戦うべき悪があり、苦しんでいる人々のいるところに政府はある。 —ロバート・ケネディ

赤字 (deficit) とは数字の問題ではない。今の社会に足りないものである。

- ・質の高い雇用の不足
- ・貯蓄の不足
- ・医療の不足
- ・教育の不足

- ・インフラの不足
- ・気候変動問題への取り組みの不足
- ・民主主義の不足

第八章 すべての国民のための経済を実現する

MMTのレンズで世界を見る＝コペルニクスの転換。

政治家は、理解できてもその考えを積極的に広めようとしなさい。

・ MMTの記述的側面

一般的に理解しにくい「管理通貨の仕組み」を事実として記述的に解説、説明する。架空の障害と本当の制約を区別し理解する。

・ MMTの処方的側面

MMTの知見をふまえて、実施すべき財政政策と金融政策を提言する。

・ 自動的に行われる義務的支出

多数の失業者と大幅な税収の落ち込みの結果による→財政出動（2008年）

・ 裁量的財政政策のためのガードレール

元FRB議長、グリーンズパンの証言「政府が必要なだけ貨幣を発行し、誰かに給付することを阻む要因は何もない」と云い、後任のバーナンキは更に一歩踏み込んで、政府の支出は「使われるのは税金ではない。単にコンピュータを操作して、対象口座の残高を増やすだけだ」と説明している。

J. F. ケネディー大統領はノーベル賞受賞の経済学者、トービンに尋ねた。

「財政赤字に上限はあるのですか。もちろん、政治的に限界があるのはわかっています。でも経済的に上限はあるのですか」と。トービンが「本当の上限はインフレだけです」と打ち明けると、大統領はこう答えた。「そうですね。インフレを引き起こさないかぎり、財政赤字はどれほど大きくなってもいいし、政府債務もどれだけ大きくなってもかまわない。それ以外はすべて建前だ」（1961年5月25日、ケ大統領は両院合同会議で、有人月探査計画を支持すると表明するのに先立って行われた会話）

必要な実物資源—インフラを改善するための資材、医師や看護師や教師になりたいという人材、必要な食料を生産する能力—があるならば、目標達成に必要な「お金」は常に用意される。

・ 国民のための経済を思い描く

政府機関の帳簿に記録される数字を無用に恐れるあまり、公共政策は過度に抑制的になってきた。これで多くの事を犠牲にしてきた。